

2023年10月幹事会議事録

日時 2023年(令和5年)10月22日(日) 10時00分~12時30分

場所 東京外国語大学 国際交流会館 1F 交流ホール ZOOM 会議併用

出席者 谷会長、春名副学長

甘利(司会)、井上、小平、佐久間、野口、山崎、山田、米山

阿部、大谷、勝又、ソ・ミョンファン、山根・・・オンラインにて 以上15名(50音順)

参考資料 ① 支援の会連絡メールのアドレスについて (谷)

② 会報74号(案) (山根)

1. 報告事項

(1) 学内状況他 (春名展生 国際担当副学長)

「4月の<教育未来創造会議の第二次提言(J-MIRAI)>では、10年間に受入れ留学生数を「40万人」に増やし、留学生の国内就職率を60%にするという大目標が提起された。卒業後も日本で就職し、日本に定着してもらうにはどうするかが課題となっている。

留学生支援の会には、留学生達が日本文化に触れる機会を提供するだけでなく、日本社会と交わる機会を創出するための助言、協力をお願いしたい。」

(2) 事業報告

1) 秋期バザー 9月29日(金)、30日(土) (井上)

・延べ約200人参加、売上げは218,000円

・バザー後の10月3日(火)4日(水)6日(金)にホールを開室し、物品をフリーで持って行ってもらった。

・7月に帰国した学生が残っていた日用品を、2ヶ月以上かけて整理分別し、使用不可な物は処分したりしたが、多大な労力がかかった。今後はどのように扱うかルール作り等が必要。

2) 交流会館3号館ウィークエンドパーティ 5月12日(金)~毎週金曜日 (甘利)

・主には、コロナ禍後の留学生達のメンタルのケアということで始めた。

・毎回100名近くが参加し、3号館の学生だけでなく学外に住む学生も参加するなど広がりを見せている。

3) 後期入学者オリエンテーション (甘利)

9月28日(木)(ISEP生)29日(金)(日研生)10月2日(月)(国費研究生)

・ISEP生、国費研究生にはオンラインで、日研生には対面で行った。

4) 連絡室 (小平)

・日本語広場・・・現在、生徒は10名。従来からのエイベック派遣講師に加え、幹事やVOLAS登録日本人学生で担っている→大学も新たに日本語教師養成推進のプログラムを立ち上げるので、日本語教師を目指す学生に実践の場として協力してもらう。

5) 「緊急貸付制度」の運用について

・10月に1件、「緊急貸付制度」を利用した貸付けがあった。

・河野貴光幹事が辞めてから担当者が空席のままだったので、甘利幹事が担当することになった。また、貸付けをするべきか否かの判断など、複数名で担うべき案件なので、担当者を増やす。

6) バレエガラコンサート 9月25日(月)

・顧問の梅田会員からの無料招待のイベント。正規の事業ではなく、有志が協力するかたちで、また、大学の夏休み中だったので、連絡ができる学生にのみ連絡した。学生14名+幹事6名がバレエを鑑賞した。

(3) 組織

- 1) 新規の入会は無し。1名からの寄付があった。

(4) その他

- ・学生に渡す謝礼について……入学者オリエンテーション文章のネイティブチェックを留学生にお願いしたが、留学生への謝礼は、連絡室やバザーの手伝い（時間当たり 1,000 円）を基準に妥当な金額を決める。（今回は 3,000 円）

2. 審議事項

(1) 後期の実施事業の確認

- 1) 調布航空宇宙センター（JAXA）見学 11月1日(水)予定 (引率：谷、小平、小松)
 - ・現在 5 名がウェイトング中だが、無料イベントなので何人かのキャンセルが予想され、キャンセルがあれば、繰り上げで参加させる。
 - ・ただし、名簿の変更が必要となり、それがいつまでできるか JAXA に確認する。
- 2) 文楽鑑賞教室 12月8日(金)予定 (山根)
 - ・60 名で仮予約中。10月17日(火)に一斉メールをしたが、申し込みは 18 名と出足が鈍い。平日で 17 時半開演は学生にとって参加し難いかもしれない。
 - ・人数を減らすか、もしくは支援の会の一般会員に声を掛ける。
- 3) 外語祭バザー 11月23日(木)(祝)25日(土)26日(日) (井上)
 - ・チャリティーを強調し、あまり値切らずに販売する。
 - ・交流会館から会場の講義棟の教室までの物品の運搬はチューターに頼む。
 - ・実行委員会より「浴衣を着せるブースで着付けを頼みたい」と依頼があった。（晩秋なので浴衣ではなく）化粧の着物を着せる着付師を頼む。（11月22日(水)24日(金)）合わせて支援の会の PR をしてもらおう。

(2) 事業、活動のオンライン化

1) 電子版会報について

- ・11 月発行の会報 74 号にて、2 月発行の 75 号から電子版を配信することを告知し、希望を調査する。75 号については希望者には pdf 版をメールで配信する。
- ・ホームページでの閲覧については、パスワード管理の方法を検討し、解決できれば実施する。

2) 新規メールアドレスの開始 -資料①参照- (谷)

- ・前回の幹事会で決定の通り、新規メールアドレスを開設し、変更した。（資料①）
- ・新規アドレスで学生への一斉メールを試行したところ、従来アドレスの問題点であった迷惑メール扱い率が顕著に低減していることが確認できた。

(3) 会報 74 号について -資料②参照- (山根)

- ・内容及び構成について確認した。

(4) 一般会員の運営や事業への参加、協力の促進、拡大について

1) 幹事、協力会員の拡大

- ・コロナ禍以前のように事業やイベントが復活するなか、幹事や協力会員の高齢化や担い手不足が懸念されてい

て、喫緊の課題である。

2) 一般会員の各種イベントへの参加

- ・試みとして、学生の申込数が少ないと予想される12月の文楽鑑賞教室に会員枠を設けてみる。
- ・イベントに参加するところから、支援の会の運営や事業に興味を持ってもらうようにする。

(5) その他

- ・大学のホームページに支援の会のリンクを貼ってもらうよう、春名副学長にお願いした。

今後の幹事会の予定について

11月19日(日)

野口 記